

# Alibaba Cloud

## 全站加速

ドメイン管理

Document Version20200701

# 目次

---

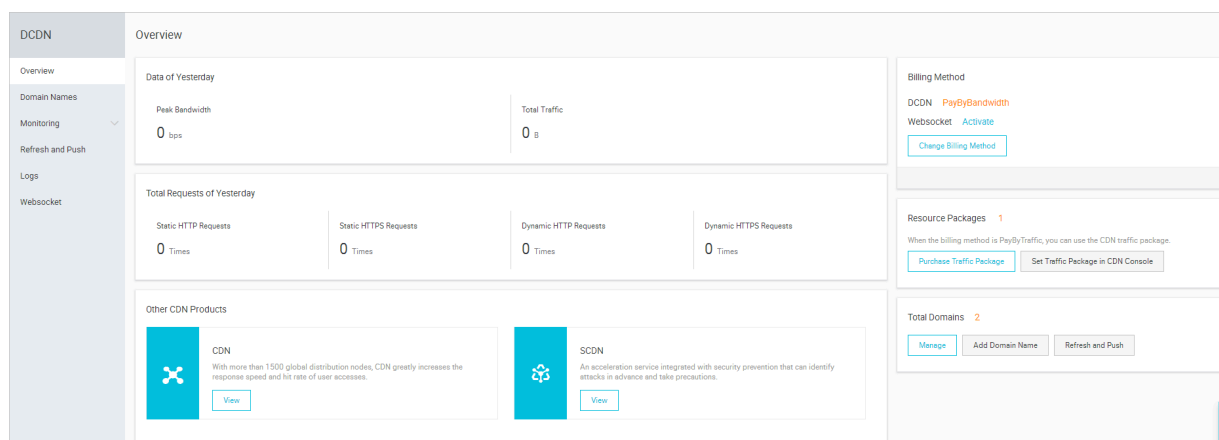
- 1 コンソールに関する紹介..... 1**
- 2 基本設定..... 3**
  - 2.1 オリジンサイトを設定.....3
  - 2.2 複数のソースへの優先順位の設定.....4
- 3 オリジンフェッチ設定..... 7**
  - 3.1 Back-to-source 設定..... 7
  - 3.2 back-to-source プロトコルと同じプロトコルの使用..... 9
  - 3.3 プライベート OSS バケット back-to-source..... 12
  - 3.4 Range back-to-source..... 13
- 4 アクセラレーションルール..... 16**
  - 4.1 静的ファイルタイプの設定..... 16
  - 4.2 静的ファイル URI の設定..... 17
  - 4.3 静的ファイルパスの設定..... 18
  - 4.4 動的オリジンプロトコルポリシーの構成..... 19
- 5 ノードキャッシュ設定..... 21**
  - 5.1 キャッシュ有効期限の設定..... 21
  - 5.2 HTTP ヘッダーの設定..... 25
- 6 HTTPS 設定..... 27**
  - 6.1 HTTP/2..... 27
  - 6.2 強制リダイレクト..... 28
- 7 アクセス制御..... 31**
  - 7.1 リファラーanti-leech..... 31
  - 7.2 IP ブラックリストとホワイトリスト..... 32
- 8 パフォーマンスの最適化..... 34**
  - 8.1 ページの最適化.....34
  - 8.2 インテリジェント圧縮..... 34
  - 8.3 パラメーターのフィルタリング..... 35
  - 8.4 ドラッグアンドドロップ再生..... 36
- 9 詳細設定..... 39**

# 1 コンソールに関する紹介

DCDN (Dynamic Route for CDN) コンソールでは、DCDN ドメイン名の追加、キャッシュの更新、および設定を行うことができます。また、データ分析に基づいたリアルタイムのリソースモニタリングも提供します。ここでは、DCDN コンソールについて説明します。

## 概要

DCDN コンソールへログインすると、アカウントの DCDN 実行ステータスの概要が表示されます。



概要ページには、次の情報が表示されます。

- 昨日の基本データ
  - ピーク帯域幅
  - 総トラフィック
- 昨日の総リクエスト数
  - 静的 HTTP リクエスト数
  - 静的 HTTPS リクエスト数
  - 動的 HTTP リクエスト数
  - 動的 HTTPS リクエスト数

左側のナビゲーションウィンドウ

項目	説明
ドメイン名	DCDNドメイン名の情報と設定を、追加、設定、削除または変更できます。

項目	説明
リソースモニタリング	Basic CDN のリアルタイム高速化パラメータを表示します (ピーク帯域幅、総トラフィック、ヒットレートなど)。
更新とプッシュ	最新の情報に更新操作とプッシュ操作を実行できます。
ログ	DCDN ログをダウンロードすることを許可します。

## 2 基本設定

### 2.1 オリジンサイトを設定

#### オリジンタイプ

オリジンタイプには、IP、OSS ドメイン、オリジンドメインなどがあります。

- IP：サーバーの外部ネットワーク IP を入力します。複数の IP を入力して、優先度を設定できます。Alibaba Cloud ECS IP は、検証対象外です。
- OSS ドメイン：同じアカウントの OSS バケットを選択することも、OSS の外部ドメイン名 ( `xxx.oss-cn-hangzhou.aliyuncs.com` など) を手動で入力することもできます。OSS の外部ドメイン名は、OSS コンソールで表示できます。
- オリジンドメイン：オリジンサイトのドメイン名を入力します。複数のオリジンサイトのドメイン名を設定し、優先度を設定できます。



注：

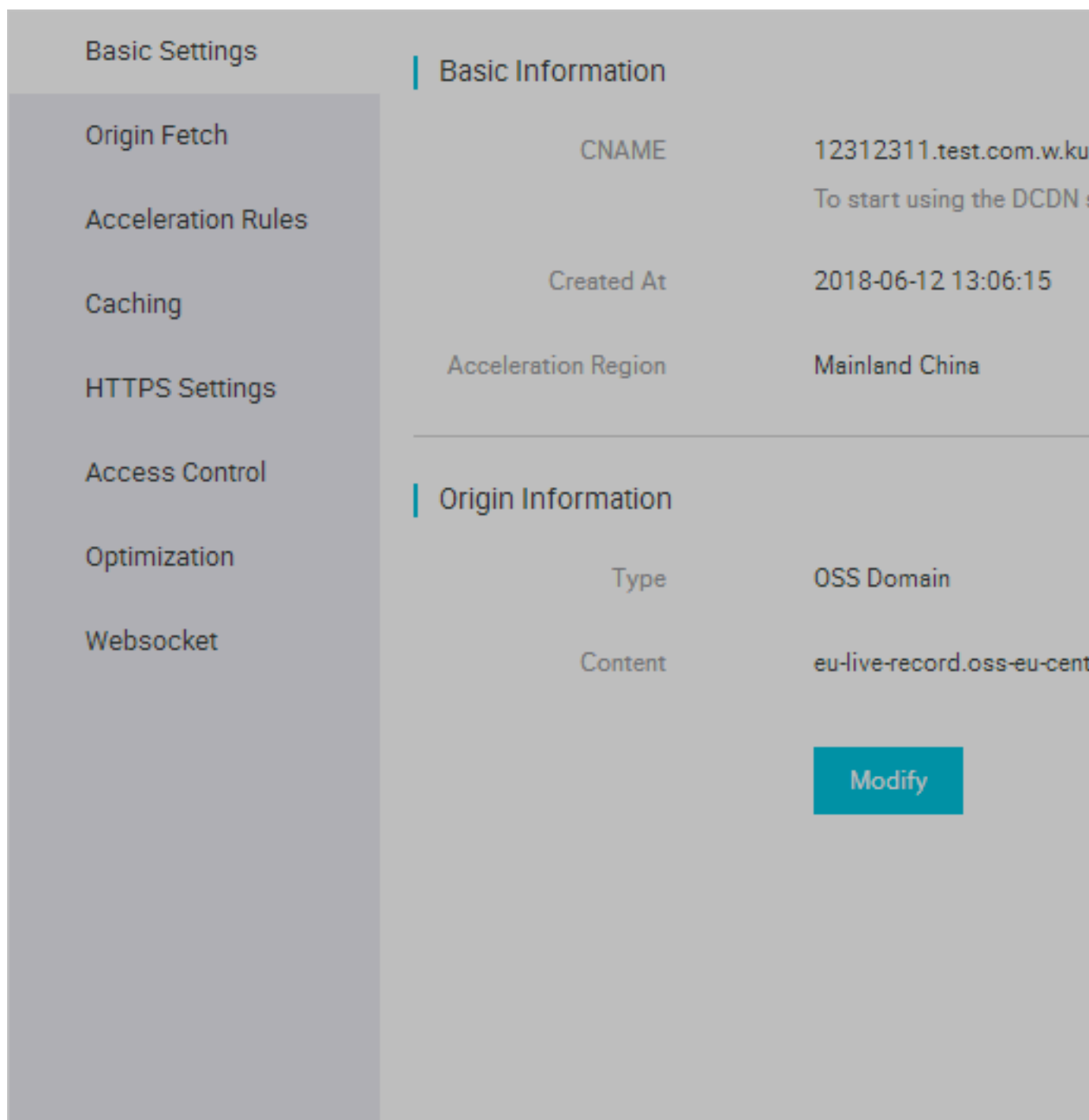
オリジンドメイン名を、DCDN ドメイン名と同じにすることはできません。同じドメイン名を指定した場合、オリジンフェッチループが発生します。たとえば、DCDN ドメイン名が `cdn.example.com` の場合、オリジンサイトを `src.example.com` に設定することを推奨します。

#### 複数のオリジンサイト

オリジンタイプを IP またはオリジンドメインに設定した場合、複数のオリジンサイトを設定し、優先度を設定できます。アクセラレーションノードは、優先度に従ってオリジンフェッチを実行します。

#### ポート

現在は、ポート 80 (HTTP 用) とポート 443 (HTTPS 用) がサポートされています。現在、カスタムポートはサポートされていません。



## 2.2 複数のソースへの優先順位の設定

### はじめに

DCDN では、**【静的リソース】**と**【動的リソース】**の両方にオリジン優先順位を設定できます。

- DCDN は、OSS ドメイン名、IP、OSS オリジンドメイン名という 3 種類のオリジンドメイン名をサポートします。複数の IP アドレスとオリジンドメイン名がサポートされています。複数のオリジンサイトが存在する場合は、オリジン優先順位を設定できます。

- オリジンタイプとして IP またはオリジンドメインを指定した場合、複数のオリジンサイトを設定し、オリジン優先順位を設定できます。オリジン優先順位は、プライマリとセカンダリのいずれかで、プライマリはセカンダリよりも優先順位が高くなります。
- ユーザーのオリジンフェッチトラフィックの 100% が、優先順位の高いオリジンサイトに最初に返送されます。
  - オリジンサイトが 3 回連続でヘルスチェックに失敗した場合、すべてのトラフィックは、優先順位の低いオリジンサイトに送られます。
  - このオリジンサイトがヘルスチェックに合格すると、再び使用可能になり、元の優先順位に戻されます。
  - すべてのオリジンサイトのオリジン優先順位が同じ場合、CDN ラウンドロビンが行われま

オリジンサイトのヘルスチェック: 4 層のヘルスチェックが、オリジンサイトで 5 秒ごとに自動的に実行されます。

サポートされるシナリオ: プライマリのオリジンとセカンダリのオリジンの切り替え。

## 手順

1. [ドメイン名] ページでドメイン名を選択し、[設定] をクリックします。
2. [基本設定] > [オリジン情報] に移動し、[変更] をクリックします。

3. オリジン **[IP]** と**[優先順位]**を設定します。

### Origin Settings

Origin Information	Type	Origin Domain	Priority
<input type="text" value="OSS Domain"/>	<input checked="" type="radio" value="IP"/>	<input type="text" value="Origin Domain"/>	<input type="text" value="Primary"/>
<input type="text" value="Enter an IP address"/>			<input type="text" value="Primary"/>
<input type="button" value="Add"/>			
	<input checked="" type="radio" value="Port 80"/>	<input type="radio" value="Port 443"/>	

4. **[OK]** をクリックして、設定を有効にします。



注：

複数のオリジンサイトの優先順位を設定できるのは、IP およびオリジンドメイン名のみです。OSS ドメイン名の場合、オリジン優先順位を設定できません。要件に合ったオリジンタイプを選択し、優先順位を適切に設定します。



## 3 オリジンフェッチ設定

### 3.1 Back-to-source 設定

#### はじめに

オリジンフェッチプロセス中にアクセスする Web サーバーのドメイン名を設定できます。

- オリジンホストの設定は、オプションです。デフォルト値は次のとおりです。
  - オリジンサイトが **IP** アドレスの場合、オリジンホストはデフォルトで DCDN ドメイン名になります。
  - オリジンサイトが **OSS** ドメイン名の場合、オリジンホストはデフォルトでオリジンサイトドメイン名になります。
- オプションは、DCDN ドメイン名、オリジンドメイン名、カスタムドメイン名です。



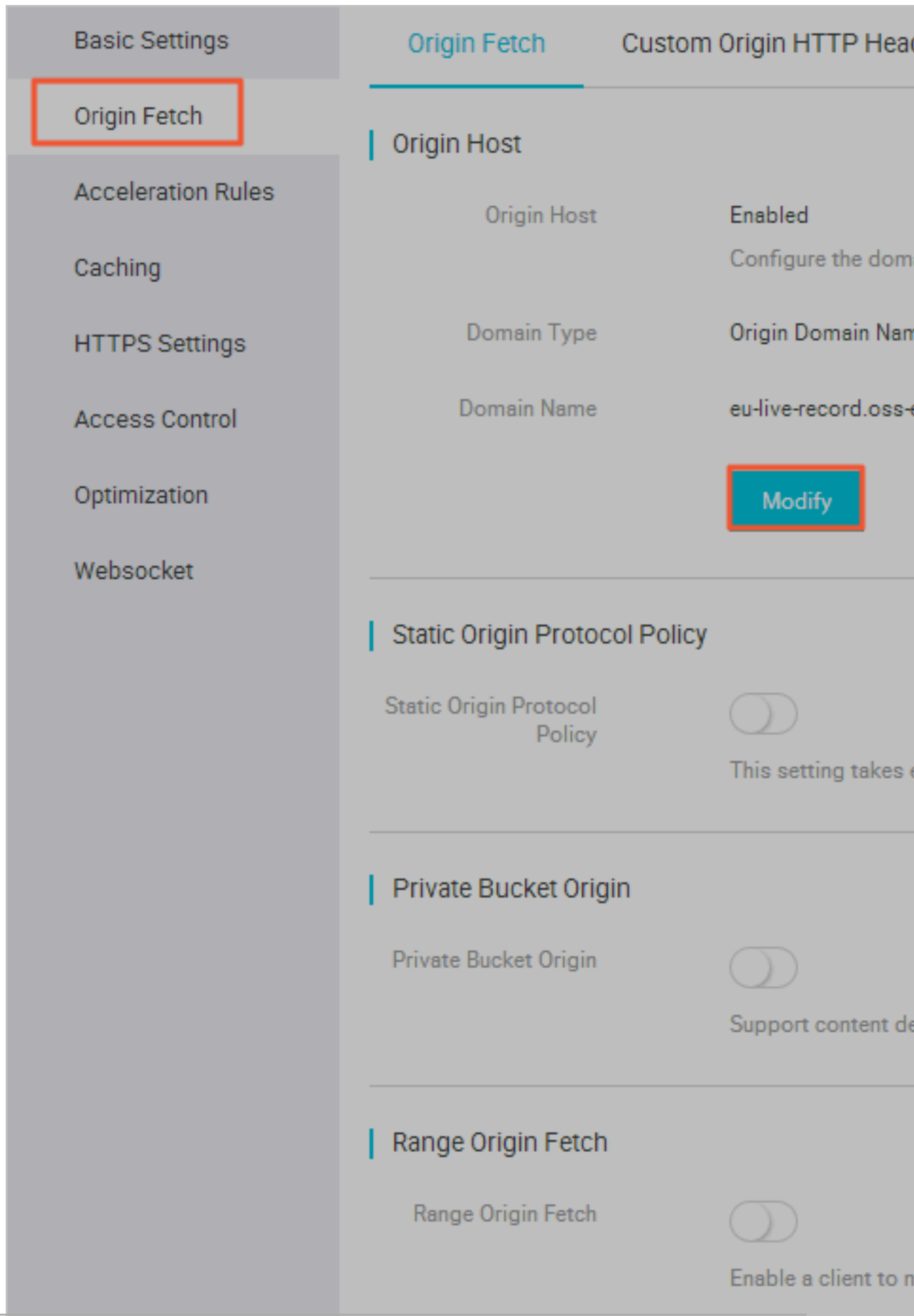
注：

SNI オリジンフェッチは 現在サポートされていません。

#### 手順

1. ドメイン名 ページでドメイン名を選択し、設定 をクリックします。
2. オリジンフェッチ > オリジンホストを開き、変更をクリックします。

3. 高速化するドメイン名のタイプを選択し、**OK** をクリックします。



### オリジンサイトとオリジンホストの違い

- オリジンサイト：オリジンサイトは、オリジンフェッチでリクエストされる IP アドレスを決定します。
- オリジンホスト：オリジンホストは、オリジンフェッチリクエストでアクセスする IP アドレス上の特定の Web サイトを決定します。

Case	Case 1	Case 2
オリジンサイト	www.a.com	1.1.1.1
オリジンホスト	www.b.com	www.b.com
実際のオリジンフェッチでは、リクエストは：	www.a.com に対応するホスト上の Web サイト www.b.com に転送されます。	1.1.1.1 に対応するホスト上の Web サイト www.b.com に転送されます。

## 3.2 back-to-source プロトコルと同じプロトコルの使用

### はじめに

この機能では、オリジンフェッチのクライアントプロトコルは、リソースアクセスのためのプロトコルと同じものになります。つまり、クライアントが HTTPS を使用してリソースをリクエストし、そのリソースがノード上にキャッシュされていない場合、DCDN は HTTPS を使用して、オリジンのリソースをリクエストします。同様に、クライアントが HTTP を使用してリソースをリクエストした場合、ノードは HTTP を使用してオリジンにリクエストを転送します。

現在、動的オリジンプロトコルポリシーと静的オリジンプロトコルポリシーがサポートされています。



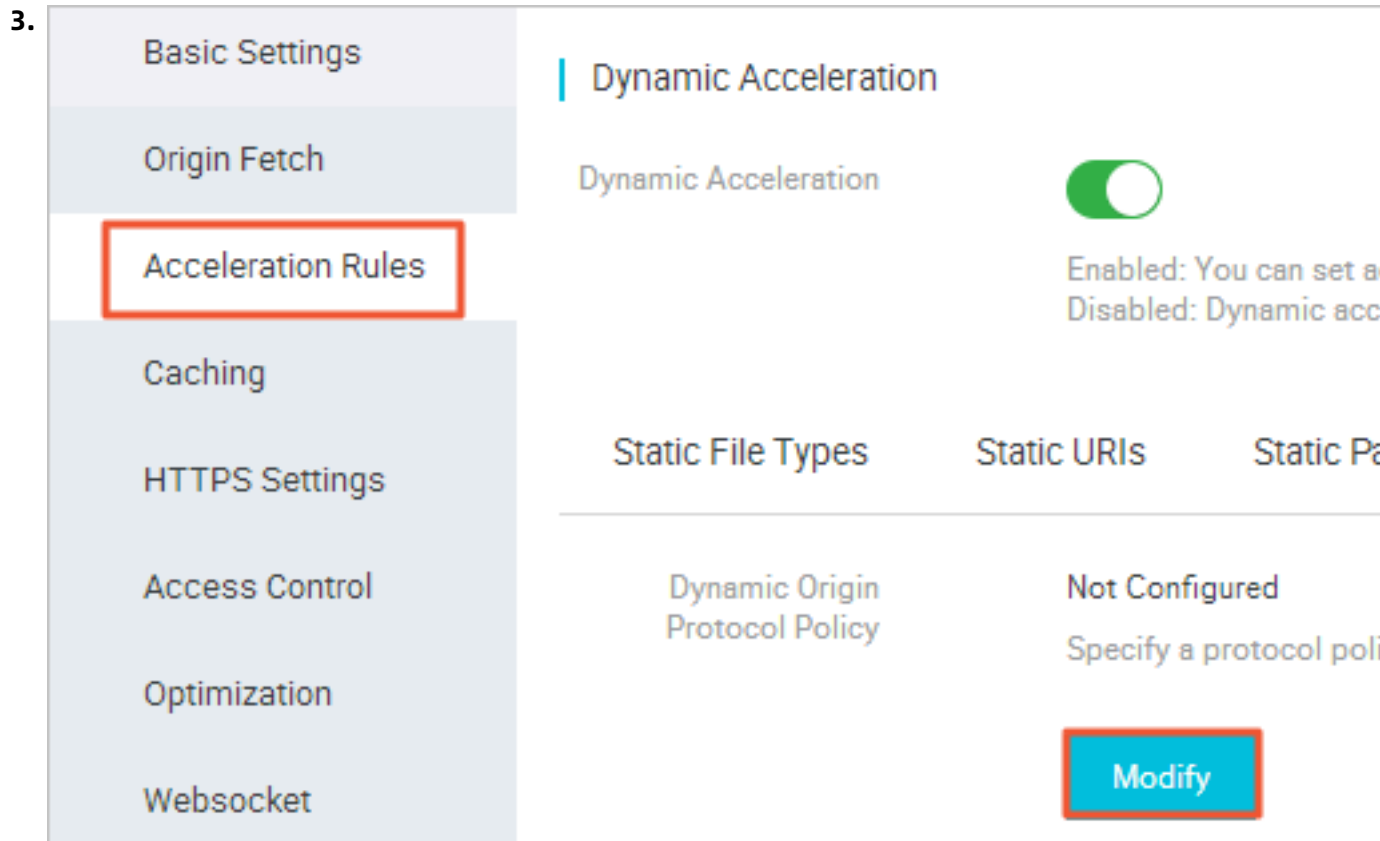
注：

オリジンサイトは、ポート 80 とポート 443 に対応している必要があります。対応していない場合、オリジンフェッチが失敗する可能性があります。

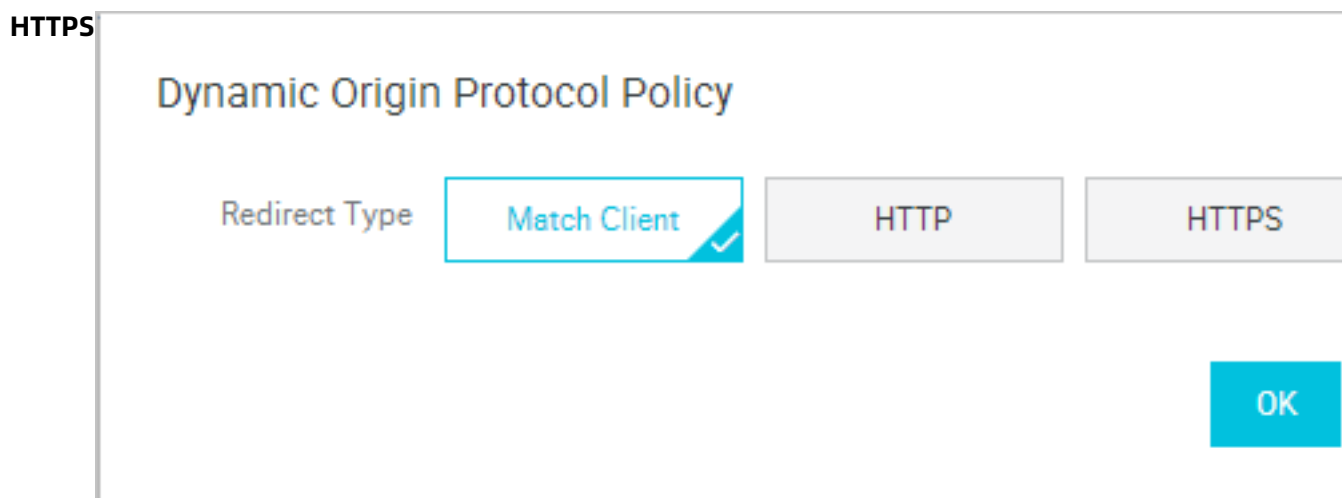
### 手順

#### 動的オリジンプロトコルポリシー

1. **[ドメイン名]** ページでドメイン名を選択し、**[設定]** をクリックします。
2. **[アクセラレーションルール]** > **[動的オリジンプロトコルポリシー]** に移動し、**[変更]** をクリックします。



4. リダイレクトタイプの選択: クライアントと一致、HTTP、または



静的オリジンプロトコルポリシー

1. [ドメイン名] ページでドメイン名を選択し、[設定] をクリックします。
2. [オリジンフェッチ] > [静的オリジンプロトコルポリシー] に移動し、スイッチをクリックします。

3.

Basic Settings	Origin Fetch	Custom Origin HTTP Header
Origin Fetch	Origin Host	Enabled Configure the domain
Acceleration Rules	Domain Type	Origin Domain Name
Caching	Domain Name	eu-live-record.oss-eu-c
HTTPS Settings		<a href="#">Modify</a>
Access Control	Static Origin Protocol Policy	<input checked="" type="checkbox"/> This setting takes effect
Optimization	Protocol Type	Not Configured
Websocket		<a href="#">Modify</a>
	Private Bucket Origin	<input type="checkbox"/> Support content delivery
	Range Origin Fetch	<input type="checkbox"/>

## 3.3 プライベート OSS バケット back-to-source

### 機能紹介

プライベート OSS バケット back-to-origin 権限付与とは、アクセラレーションドメイン名をユーザーアカウントに戻してプライベート OSS バケット (プライベートバケットと呼ばれます) としてマークする場合、初めに権限付与を行う必要があることを意味します。権限付与が成功し、権限付与設定が有効になっている場合、ドメイン名がプライベートバケットによって承認された後、初めてプライベートバケットにアクセスできるようになります。

### リスクの警告

- 権限付与が成功し、対応するドメイン名のプライベートバケット機能が有効になっている場合、アクセラレーションドメインはプライベートバケット内のリソースのコンテンツにアクセスできます。この機能を有効にする前に、慎重にビジネス要件をご検討ください。



注:

バケットコンテンツは、CDN アクセラレーションドメイン名の back-to-origin のソースとしては適していません。

- CDN により提供されている リファラー (**OSS Anti-Leech**) や 認証 などの機能を使用すると、リソースを効果的に保護できます。
- Web サイトが攻撃のリスクにさらされている場合は、Anti-DDoS Pro サービスを購入することを推奨します。また、プライベート OSS バケット機能を許可したり、有効にしたりしないでください。

### 手順

プライベートバケット Back-to-Origin 権限付与の有効化

- [ドメイン名] ページでドメイン名を選択し、[設定] をクリックします。
- [基本設定] > [オリジン情報] に移動し、[変更] をクリックします。
- [Back-to-Origin 設定] > [プライベートバケット Back-to-Origin 設定] > [サービスアクセス権限付与] で、[今すぐ権限付与] をクリックします。
- 権限付与は成功しました。[OK] をクリックして、ドメイン名に対してプライベートOSSバケット back-to-source を有効にします。
- 操作は成功しました。

プライベートバケット back-to-origin 権限付与の無効化

- [リソースアクセス管理] > [ロール管理] に移動し、

2. 削除するロールを [削除] します。
3. プライベートバケット権限付与の削除に成功しました。



注：

アクセラレーションドメイン名で、back-to-origin のソースサイトとしてプライベートバケットを使用している場合は、プライベートバケット権限付与を閉じたり削除したりしないでください。

## 3.4 Range back-to-source

### はじめに

Range オリジンフェッチ機能では、クライアントがオリジンサイトサーバーに通知して、特定の範囲の部分的なコンテンツを返すことができます。この機能により、オリジンフェッチトラフィックの消費が減り、リソースの応答速度が向上するため、大容量ファイルの配信が高速化されます。

- Range オリジンフェッチ機能を使用するには、オリジンサイトが Range リクエストに対応している必要があります。オリジンサイトは、Range フィールドを含む HTTP リクエストヘッダーの適切な 206 Partial Content を返せるようになっていなければなりません。
- Range オリジンフェッチが有効の場合、パラメーターのリクエストをオリジンサイトに戻すことができます。この場合、オリジンサイトは Range パラメーターに従ってファイルのバイト範囲を返し、CDN ノードはバイト範囲のコンテンツをクライアントに返します。



注：

たとえば、クライアントから CDN ノードに送信されたリクエストに range: 0-100 が含まれている場合、オリジンサイトで受信したリクエストにも range: 0-100 パラメーターが含まれています。オリジンサイトがパラメーターコンテンツを CDN ノードに返すと、CDN ノードは 0 ~ 100 までの 101 バイトのコンテンツをクライアントに返します。

- Range オリジンフェッチが無効になっている場合、上位レベルの CDN ノードは、すべてのファイルをオリジンサイトにリクエストします。ただし、Range で指定したバイトをクライアントが受信した後に HTTP リンクを自動的に切断するため、リクエストされたファイルは CDN ノードにキャッシュされません。したがって、キャッシュヒット率が低下し、オリジンフェッチトラフィックが大きくなります。



注：

たとえば、range:0-100 を含むリクエストがクライアントから CDN ノードに送信された場合、サーバー上で受信するリクエストに range:0-100 パラメーターは含まれません。オリジンサイトは完全なファイルを CDN ノードに返し、CDN ノードは 101 バイトだけをクライアントに返します。ただし、リンクが切断されているので、ファイルは CDN ノードにキャッシュされません。

## 注記

Range オリジンフェッチ機能を使用するには、オリジンサイトが Range リクエストに対応している必要があります。オリジンサイトは、Range フィールドを含む HTTP リクエストヘッダーの適切な 206 Partial Content を返さなければなりません。

## 手順

1. **[ドメイン名]** ページでドメイン名を選択し、**[設定]** をクリックします。



2. [オリジンフェッチ] > [Range オリジンフェッチ] に移動して、range オリジンフェッチを有効にします。

Basic Settings	<b>Origin Fetch</b>	Custom Origin HTTP Headers
Origin Fetch	<b>Origin Host</b>	
Acceleration Rules	Origin Host	Enabled
Caching		Configure the domain
HTTPS Settings	Domain Type	Origin Domain Name
Access Control	Domain Name	eu-live-record.oss-
Optimization		<a href="#">Modify</a>
Websocket	<b>Static Origin Protocol Policy</b>	
	Static Origin Protocol Policy	<input type="checkbox"/>
		This setting takes
	<b>Private Bucket Origin</b>	
	Private Bucket Origin	<input type="checkbox"/>
		Support content de
	<b>Range Origin Fetch</b>	
	Range Origin Fetch	<input checked="" type="checkbox"/>

## 4 アクセラレーションルール

---

### 4.1 静的ファイルタイプの設定

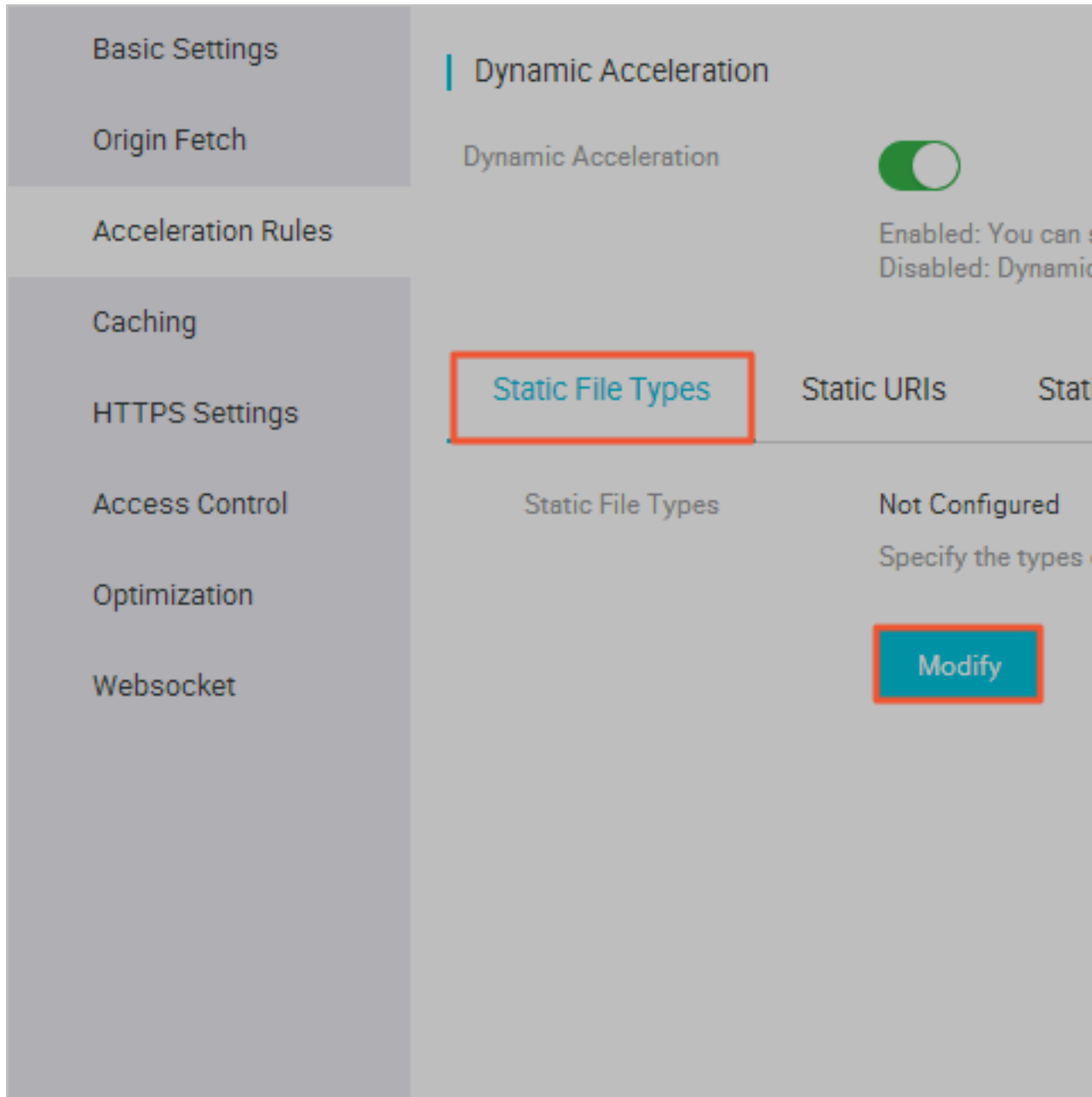
#### はじめに

この機能は、静的ファイルタイプをファイル名拡張子で指定することができます。指定された静的ファイルは、動的アクセラレーションを使用しなくなります。代わりに、静的アクセラレーションを使用してキャッシュと配布に最適な CDN ノードを割り当てます。

#### 手順

1. ドメイン名ページでドメイン名を選択し、**[設定]** をクリックします。
2. **[アクセラレーションルール]** > **[静的ファイルタイプ]** に移動し、**[変更]** をクリックします。

3. 静的ファイルタイプを選択します。指定されたファイルはキャッシュされま  
す。CDN ノードは、このファイルを配信元サイトにリクエストする必要がありませ  
ん。



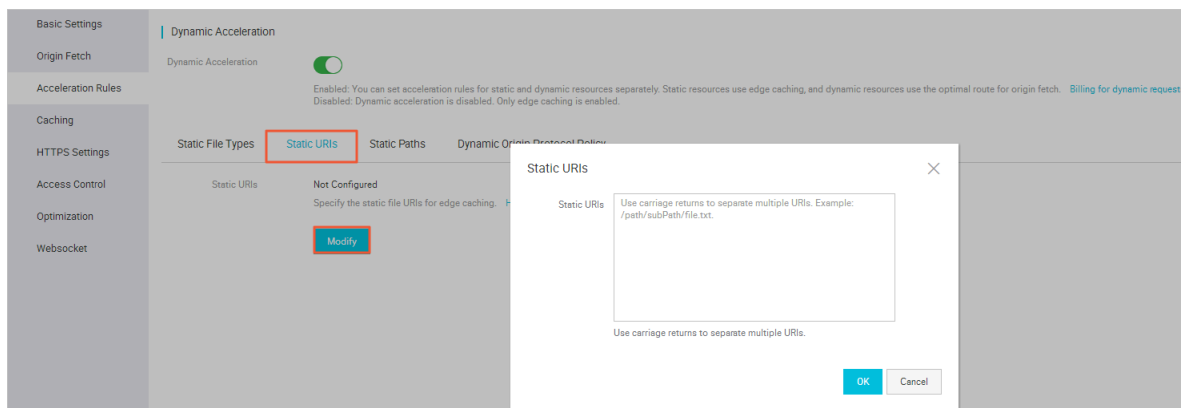
## 4.2 静的ファイル URI の設定

### はじめに

この機能では、静的ファイルをファイル URI で指定します。指定された静的ファイルは、動的アクセラレーションは使用しなくなります。代わりに、静的アクセラレーションを使用してキャッシュと配布に最適なエッジノードを割り当てます。

## 手順

1. ドメイン名 ページでドメイン名を選択し、**[設定]** をクリックします。
2. **[アクセラレーションルール]** > **[静的 URI]** に移動し、**[変更]** をクリックします。
3. URI を入力します。指定された静的 URI のリソースは、静的アクセラレーションを使用し、エッジノードにキャッシュされます。



## 4.3 静的ファイルパスの設定

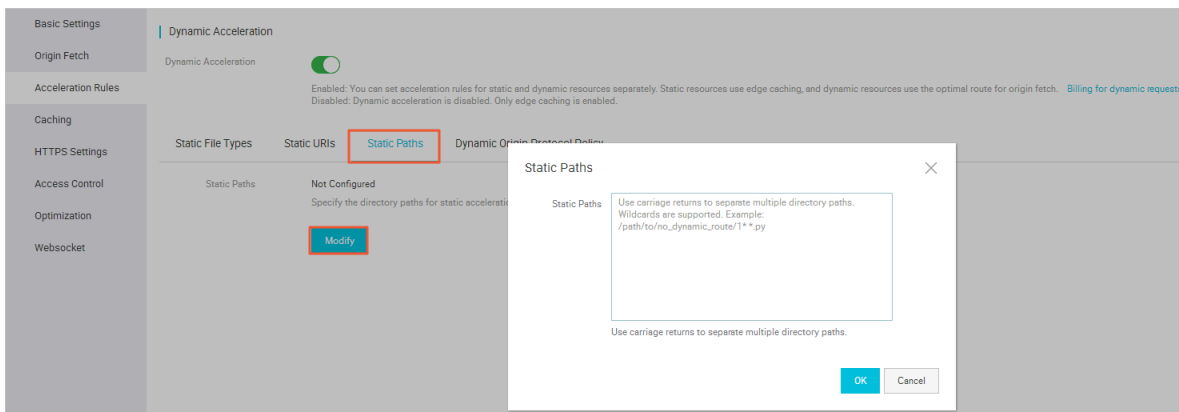
### はじめに

この機能は、静的ファイルをファイルパスで指定します。指定された静的ファイルでは、動的アクセラレーションは使用しなくなります。代わりに、静的アクセラレーションを使用してキャッシュと配布に最適なエッジノードを割り当てます。

### 手順

1. ドメイン名 ページでドメイン名を選択し、**[設定]** をクリックします。
2. **[アクセラレーションルール]** > **[静的パス]** に移動し、**[変更]** をクリックします。

### 3. キャッシュパスを指定します。



静的パスのリソースは、ユーザーが即時取得できるためのエッジノードキャッシュを使用し、より良好なアクセラレーション効果を提供します。

## 4.4 動的オリジンプロトコルポリシーの構成

Dynamic Route for CDN (DCDN) は、動的リソースを要求する際、指定された動的オリジンプロトコルポリシーを使用してオリジンサーバーと通信します。Match Client ポリシーを指定すると、DCDN はクライアントリクエストのプロトコルに応じて、HTTP または HTTPS でオリジンサーバーと通信を行います。デフォルトでは、DCDN は動的リソースを要求する際、オリジンポートの設定に応じてオリジンサーバーと通信します。

動的リソースと静的リソースのアクセラレーションルールは次のとおりです。

- 有効化

静的リソースおよび動的リソースの配信を高速化するには、**【動的アクセラレーション】**を有効化する必要があります。ビジネスニーズに基づいて、静的リソースと動的リソースのアクセラレーションルールをカスタマイズできます。静的リソースおよび動的リソースの配信は、これらのカスタムアクセラレーションルールに基づいて高速化されます。DCDN キャッシュノードにキャッシュできる静的リソースのファイルタイプ、URI、ディレクトリをカスタマイズできます。DCDN のオリジンプロトコルポリシーを設定して、オリジンサーバーから動的リソースを取得することもできます。

- 無効

動的リソースの配信を高速化する必要がなくなった場合は、**【動的アクセラレーション】**を無効化できます。動的アクセラレーションを無効化すると、動的リソースはアクセラレーションなしで配信されます。静的リソースは、エッジキャッシングに基づいて配信されます。デフォ

ルートの静的ファイルアクセラレーションルールのみが有効です。手動で追加された静的ファイルアクセラレーションルールはすべて無効になります。

1. **【動的アクセラレーション】** ページで、**【動的アクセラレーション】** をオンにします。
2. **【動的オリジンプロトコルポリシー】** タブをクリックします。
3. **【動的オリジンプロトコルポリシー】** タブで、**【変更】** をクリックします。
4. 表示されるダイアログボックスで、必要に応じて動的オリジンプロトコルポリシーを選択します。

パラメーター	説明
Match Client	DCDN は、クライアント要求のプロトコルに応じて、HTTP または HTTPS を介してオリジンサーバーと通信します。
HTTP	DCDN は HTTP のみを使用して、オリジンサーバーと通信します。
HTTPS	DCDN は、HTTPS のみを使用して、オリジンサーバーと通信します。

## 5 ノードキャッシュ設定

---

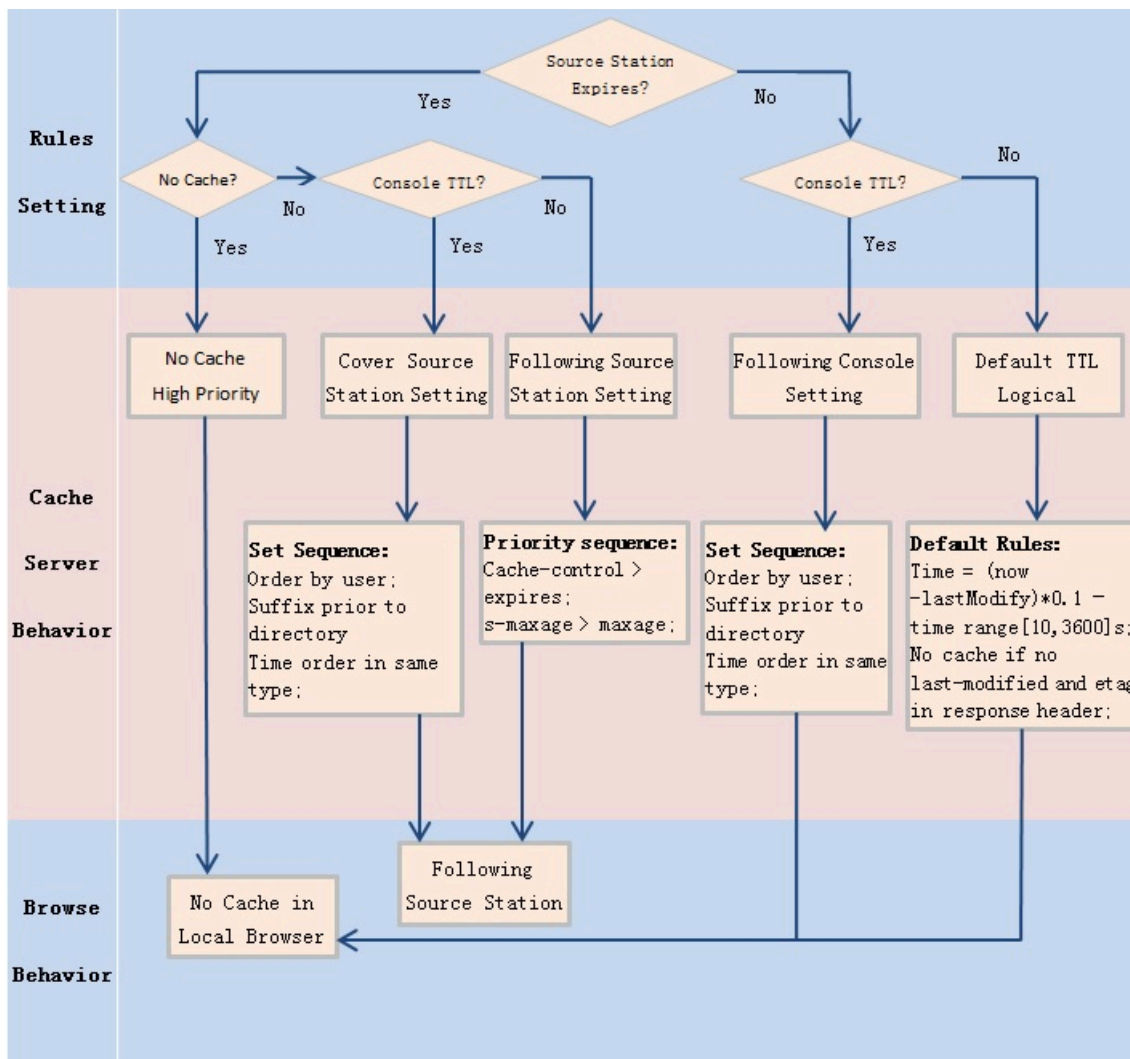
### 5.1 キャッシュ有効期限の設定

DCDN (Dynamic Route for CDN) では、指定したファイルタイプまたはディレクトリ内の静的リソースに有効期限を設定するためのキャッシュ有効期限ルールを作成できます。キャッシュ有効期限ルールには、それぞれ優先度を設定することができます。有効期限を経過した静的リソースは、DCDN ノードから自動的に削除されます。このトピックでは、DCDN ノードにキャッシュされたリソースを有効期限経過後に削除するためのルールと、キャッシュ有効期限ルールを作成する方法について説明します。

キャッシュサーバーは、指定されたファイルタイプまたはディレクトリ内のリソースをキャッシュします。キャッシュ有効期限ルールでは、リソースをキャッシュする期間として TTL (Time To Live、有効期間) の値を指定できます。設定されたルールに基づいて、DCDN ノードは有効期限を経過したリソースを削除します。

- キャッシュ有効期限ルールには優先順位を設定できます。
- DCDN ノードのデフォルトのキャッシングポリシーは次のとおりです。
  - 配信元サーバーにキャッシングルールが設定されている場合でも、DCDN ノードのキャッシュ有効期限ルールが優先されます。
  - 配信元サーバーにキャッシングルールが設定されていない場合、ディレクトリまたはファイル拡張子ごとにキャッシュ有効期限ルールを設定できます。キャッシュ有効期限ルールはフルパスで設定できます。

下図に、デフォルトのキャッシュ有効期限ポリシーを示します。



注:

DCDN ノード上で頻繁に更新されないキャッシュファイルは、指定された有効期限が経過する前に削除される場合があります。

下表に、各種キャッシュファイルで推奨される TTL の値を示します。

ファイルタイプ	TTL の値	例
頻繁に更新されない静的ファイル	1 か月以上	画像およびアプリケーション
頻繁に更新される静的ファイル	1 か月弱	JavaScript および CSS ファイル
動的ファイル	1 秒	コンテンツが更新された PHP ファイル
頻繁に更新される動的ファイル	0 秒 (このタイプのファイルはキャッシュされません)	PHP、JSP、および ASP ファイル






注：

配信元サーバー上のリソースファイルを更新する際、既存のリソースファイルと同じ名前を使用する代わりに、ファイルにバージョン番号を付加して更新することを推奨します。たとえば、img-v1.0.jpg を更新した場合は、img-v2.1.jpg とします。

1. Alibaba Cloud CDN コンソールにログインします。
2. 左側のナビゲーションウィンドウで、[ドメイン名] をクリックします。
3. [ドメイン名] ページでルールを設定するドメイン名を選択し、[設定] をクリックします。
4. [キャッシング] タブを選択し、[追加] をクリックします。
5. [キャッシュ有効期限] ダイアログボックスで、[タイプ] を [ディレクトリ] または [ファイル拡張子] に設定します。

項目	説明
タイプ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ディレクトリ: 指定されたディレクトリ内のキャッシュ済みリソースを対象にルールを設定します。</li> <li>• ファイル拡張子: 指定したファイル拡張子を持つファイルのキャッシュ済みリソースを対象にルールを設定します。</li> </ul>
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>• [タイプ] を [ディレクトリ] に設定した場合、[対象] フィールドにディレクトリ名を入力します。ディレクトリ名は、スラッシュ (/) で開始する必要があります (例: /directory/aaa)。</li> <li>• [タイプ] を [ファイル拡張子] に設定した場合、[対象] フィールドに少なくとも1つのファイル拡張子を入力します。複数のファイル拡張子はカンマ (,) で区切ります (例: JPG、txt)。</li> </ul>
有効期限	<p>キャッシュされたリソースの TTL の値を指定します。DCDN ノードは、最大3年間リソースをキャッシュできます。次の規則に従ってこのパラメーターを設定することを推奨します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 頻繁に更新されない、画像やアプリケーションなどの静的ファイルには、1か月以上の有効期間を設定します。</li> <li>• 頻繁に更新される、JS や CSS 形式のファイルなどの静的ファイルについては、実際のビジネス状況に基づいて有効期間を指定します。</li> <li>• PHP、JSP、および ASP 形式のファイルなど、動的ファイルについてはキャッシュしないでください。</li> </ul>

項目	説明
重み	<p>ルールの優先度を指定します。</p> <div style="background-color: #f0f0f0; padding: 10px; border: 1px solid #ccc;"> <p> 注：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>このパラメーターは、1 から 99 の整数で設定します。値が大きいほど優先度が高く、優先度の高いルールが優先度の低いルールより優先されます。</li> <li>複数のルールに同じ優先度を設定しないことを推奨します。複数のルールに同じ優先度が設定された場合、それらのルールに適用される優先度は無作為に決定されます。</li> </ul> </div> <p>たとえば、example.aliyun.com ドメインに次のルールを設定した場合、ルール 1 が他の 2 つのルールよりも優先されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ルール 1: タイプを「ファイル拡張子」、オブジェクトを「jpg, png」、有効期限を「1か月」、重みを「90」にそれぞれ設定</li> <li>ルール 2: タイプを「ディレクトリ」に、対象を「/www/dir/aaa」に、有効期限を「1 時間」に、重みを「70」にそれぞれ設定</li> <li>ルール 3: タイプを「ディレクトリ」に、オブジェクトを「/www/dir/aaa/example.php」に、有効期限を「0 秒」に、重みを「80」にそれぞれ設定</li> </ul>

### Cache Duration ✕

Type  Directory  Filename Extension

Content

Enter a single directory. The directory must start with a forward slash (/).  
Example: /directory/aaaa

Expire In  Seconds

The maximum value is 3 years.

Weight

Value range: 1 to 99

6. **[OK]** をクリックします。

ルールを編集または削除するには、キャッシュ有効期限ルールの **[アクション]** 列で **[変更]** または **[削除]** をクリックします。

## 5.2 HTTP ヘッダーの設定

### はじめに

HTTP 応答ヘッダーを設定できます。現在、9つの HTTP リクエストヘッダーのパラメーターをカスタマイズできます。パラメーターは次のとおりです。

パラメーター	説明
Content-Type	クライアント応答オブジェクトのコンテンツタイプを指定します。
Cache-Control	クライアントのリクエストと応答が従うキャッシュメソッドを指定します。
Content-Disposition	クライアントがオブジェクトに応答するとき、ファイルダウンロード設定を有効にするためのデフォルトのファイル名を指定します。
Content-Language	クライアントがオブジェクトに応答するための言語を指定します。
Expires	クライアントがオブジェクトに応答するための有効期限を指定します。
Access-Control-Allow-Origin	許可されているクロスオリジンリクエストの配信元を指定します。
Access-Control-Allow-Methods	許可されているクロスオリジンリクエストのメソッドを指定します。
Access-Control-Max-Age	特定のリソースに対するオリジンフェッチリクエスト結果をクライアントプログラムが返すためのキャッシュ期間を指定します。
Access-Control-Expose-Headers	許可されたアクセスのカスタムヘッダー情報を指定します。

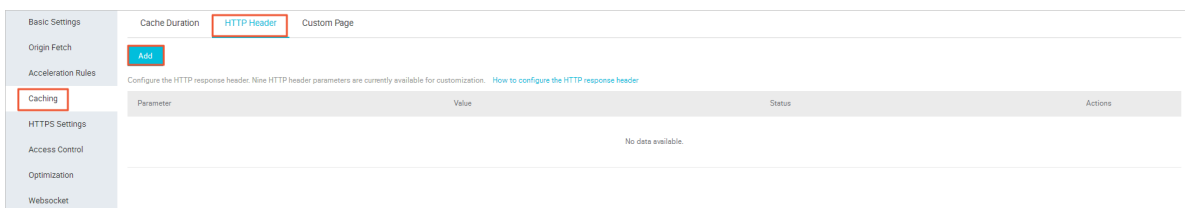
### 制限とガイドライン

- HTTP 応答ヘッダーの設定は、DCDN ドメイン名の下にある全リソースのクライアントプログラムの応答動作に影響しますが、キャッシュサーバーの動作には影響しません。

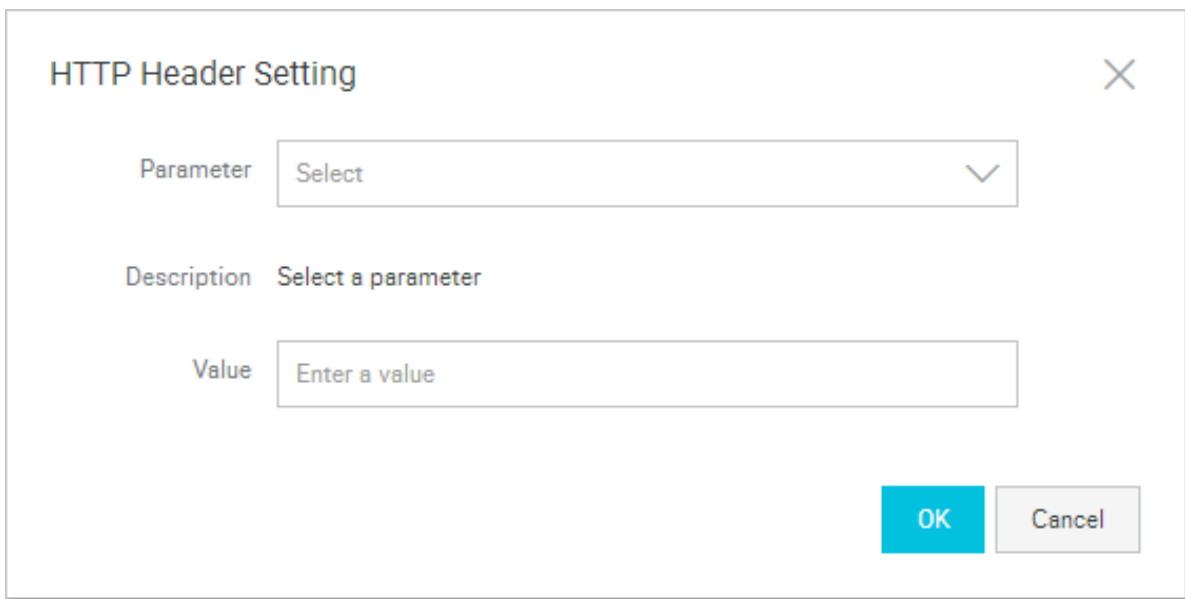
- 現時点で、上記の HTTP ヘッダーのパラメーターのみを設定できます。他の HTTP ヘッダーのパラメーターの設定をリクエストするには、チケットを起票し、サポートセンターへお問い合わせください。
- "Access-Control-Allow-Origin" パラメーターには、すべてのドメイン名を示す「\*」や、絶対ドメイン名を入力することができます。例: www.aliyun.com。現在、ワイルドカードドメイン名はサポートされていません。

手順

1. [ドメイン名] ページでドメイン名を選択し、[設定] をクリックします。
2. [キャッシュ] > [HTTP ヘッダー] に移動し、[追加] をクリックします。



3. HTTPヘッダーにカスタムパラメーターを設定できます。



## 6 HTTPS 設定

### 6.1 HTTP/2

#### はじめに

2015 年に公開された最新の HTTP プロトコルである HTTP/2 は、Chrome、IE11、Safari、Firefox などの多くのブラウザで使用可能になりました。SPDY と同様の主な機能を備えた HTTP/2 は、HTTP/1.1 の高度なエディションと見なすことができます。

#### HTTP/2 の利点

- **バイナリプロトコル:** HTTP 1.x と比較して、HTTP/2 セグメントは情報を小さなフレームとメッセージに変換し、バイナリを使用してそれらをエンコードするため、プロトコルのスケラビリティが向上します。たとえば、データとコマンドはフレーム単位で変換できます。
- **コンテンツセキュリティ:** HTTPS をベースにした HTTP/2 では、セキュリティとパフォーマンスの両方を考慮しています。
- **多重化:** HTTP/2 を使用すると、ブラウザーは 1 つの接続で複数のリクエストをトリガーして、それらのリクエストを任意の順序で、または同時に受信できます。さらに、ストリームの依存関係も多重化で利用可能であるため、クライアントサーバーはどのコンテンツを優先的に転送するかを定義できます。
- **ヘッダー圧縮:** HTTP/2 は、メッセージヘッダーを圧縮して HPACK 形式で転送し、ヘッダーのインデックステーブルを作成します。インデックスのみが転送されるため、転送効率と転送速度が向上します。
- **サーバープッシュ:** SPDY と同様に、HTTP/2 を使用すると、サーバーはリクエストなしにコンテンツをクライアントに積極的にプッシュでき、Web ページの読み込み速度が大幅に向上します。

#### 手順

1. [DCDN コンソール](#) にログインします。
2. ドメイン名 ページで、ドメイン名を選択し、**[設定]** をクリックします。



注:

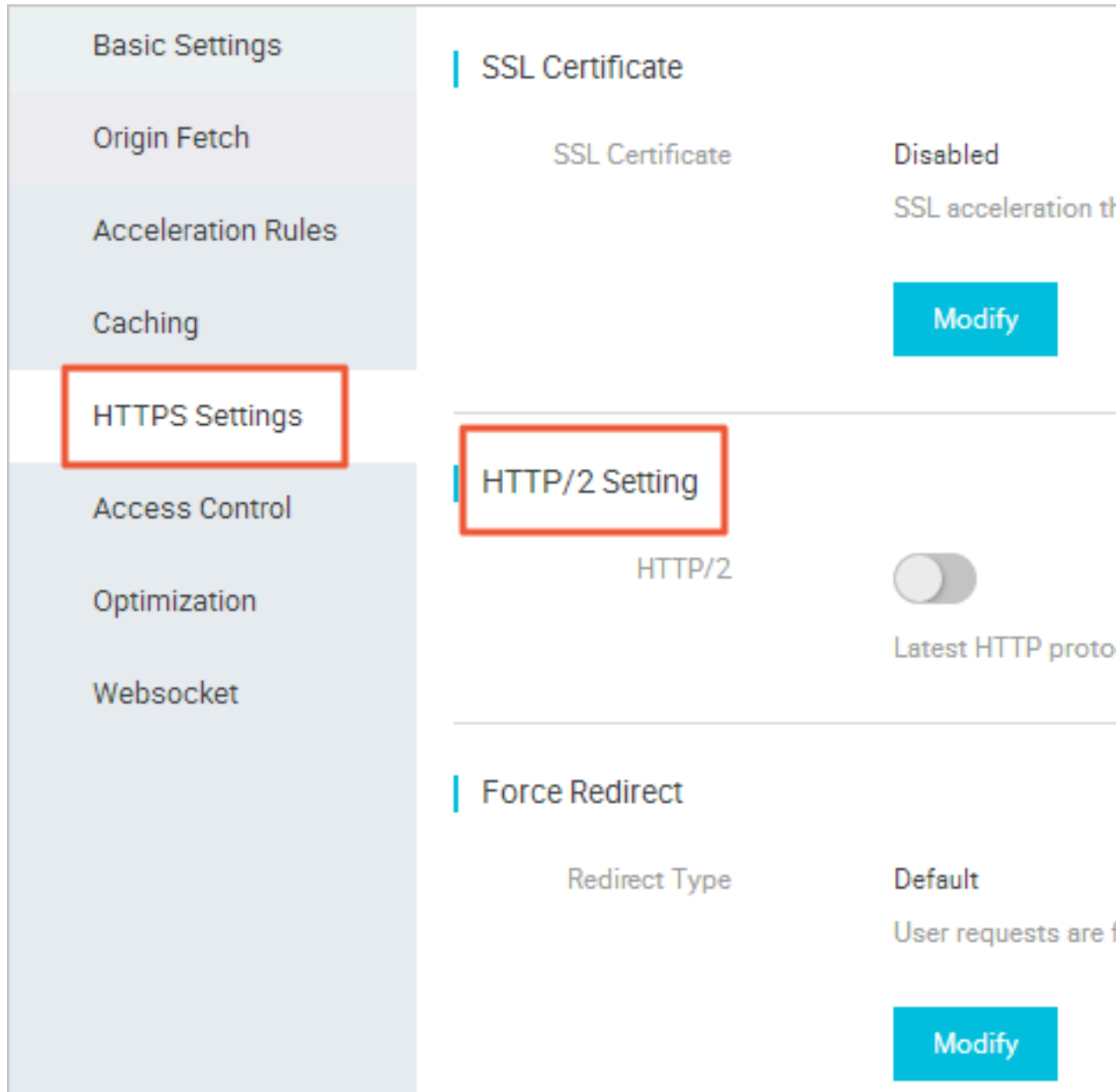
HTTP/2 を有効にする前に、HTTPS 証明書を設定したことを確認してください。

- HTTPS 証明書を初めて設定する場合は、設定が有効になるまでしばらくお待ちください。

- HTTP/2 サービスの実行中に HTTPS 証明書を無効にすると、HTTP/2 サービスは自動的に無効になります。

3. [HTTPS 設定] > [HTTP/2 設定] から、HTTP/2 を有効にしま

す。



## 6.2 強制リダイレクト


はじめに

DCDNドメインの **SSL** アクセラレーションが有効になっている場合、強制リダイレクト設定に従って、ユーザーのリクエストはリダイレクトされます。

たとえば、リダイレクトタイプを **[HTTP から HTTPS]** にセットします。次の図に示すように、ユーザーが HTTP リクエストを送信すると、サーバーは 302 リダイレクト応答を返し、元の HTTP リクエストは HTTPS にリダイレクトされます。

```
$ curl http://[redacted] -i
HTTP/1.1 301 Moved Permanently
Server: Tengine
Date: Mon, 03 Jun 2019 13:26:01 GMT
Content-Type: text/html
Content-Length: 278
Connection: keep-alive
Location: https://[redacted]
Via: cache2.cn201[,0]
Timing-Allow-Origin: *
EagleId: 2a786b0215595683612635433e

<!DOCTYPE HTML PUBLIC "-//IETF//DTD HTML 2.0//EN">
<html>
<head><title>301 Moved Permanently</title></head>
<body bgcolor="white">
<h1>301 Moved Permanently</h1>
<p>The requested resource has been assigned a new permanent URI.</p>
<hr/>Powered by Tengine</body>
</html>
```

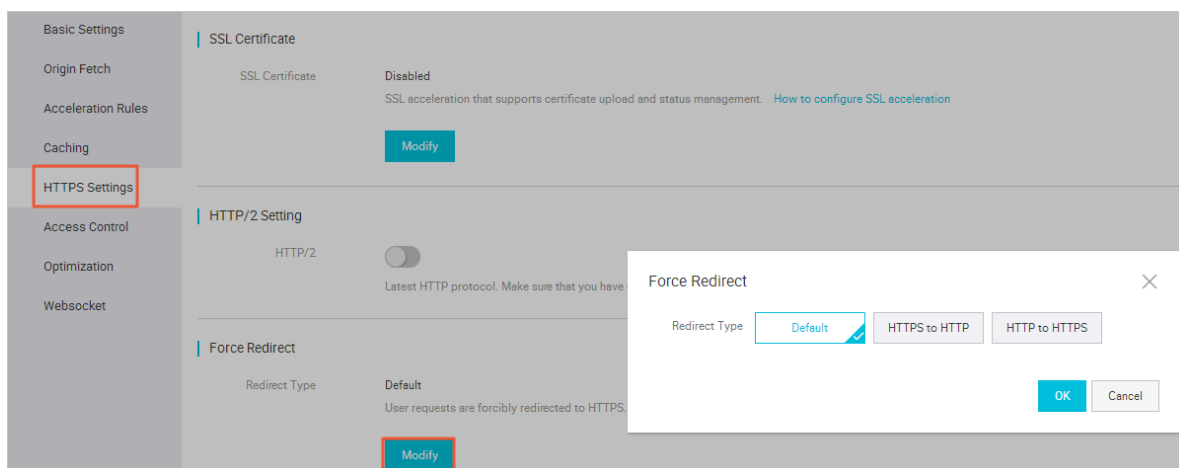
 注：

- 強制リダイレクト設定を有効にするには、**SSL アクセラレーション**が有効になっていることを確認します。HTTP を HTTPS にリダイレクトすることも、HTTPS を HTTP にリダイレクトすることもできます。
- デフォルトでは、ユーザーリクエストはリダイレクトされません。

**手順**

1. ドメイン名 ページでドメイン名をポイントし、**[設定]** をクリックします。
2. **[HTTPS設定]** > **[強制リダイレクト]** に移動し、**[変更]** をクリックします。

3. [リダイレクトタイプ]を選択します。



- 強制リダイレクト設定は、オプションです。デフォルト設定では、HTTP リクエストと HTTPS リクエストの両方がサポートされています。
- "デフォルト"、"HTTPS から HTTP"、"HTTP から HTTPS" のオプションがあります。
  - HTTP からHTTPS: HTTP リクエストは、HTTPS にリダイレクトされます。
  - HTTPS から HTTP: HTTPS リクエストは、HTTP にリダイレクトされます。



## 7 アクセス制御

---

### 7.1 リファラー anti-leech

#### はじめに

- anti-leech 機能は、HTTP でサポートされるリファラー情報に基づいています。この機能では、リファラーを使用してソースを追跡、識別、および判断します。リファラーのブラックリストとホワイトリストを設定すると、訪問者のIDを識別してフィルタリングし、DCDN リソースへのアクセスを制限することができます。
- anti-leech 機能は、ブラックリストまたはホワイトリストをサポートします。訪問者がリソースのリクエストを開始した後、そのリクエストは DCDN ノードに到達します。DCDN ノードは、あらかじめ設定された anti-leech ブラックリストまたはホワイトリストに従って、訪問者のIDをフィルターします。ID がホワイトリストに含まれている、または ID がブラックリストに含まれていない訪問者は、リソースを取得できます。これ以外の場合、訪問者のリクエストは拒否され、403 レスポンスコードが返されます。

#### 制限およびガイドライン

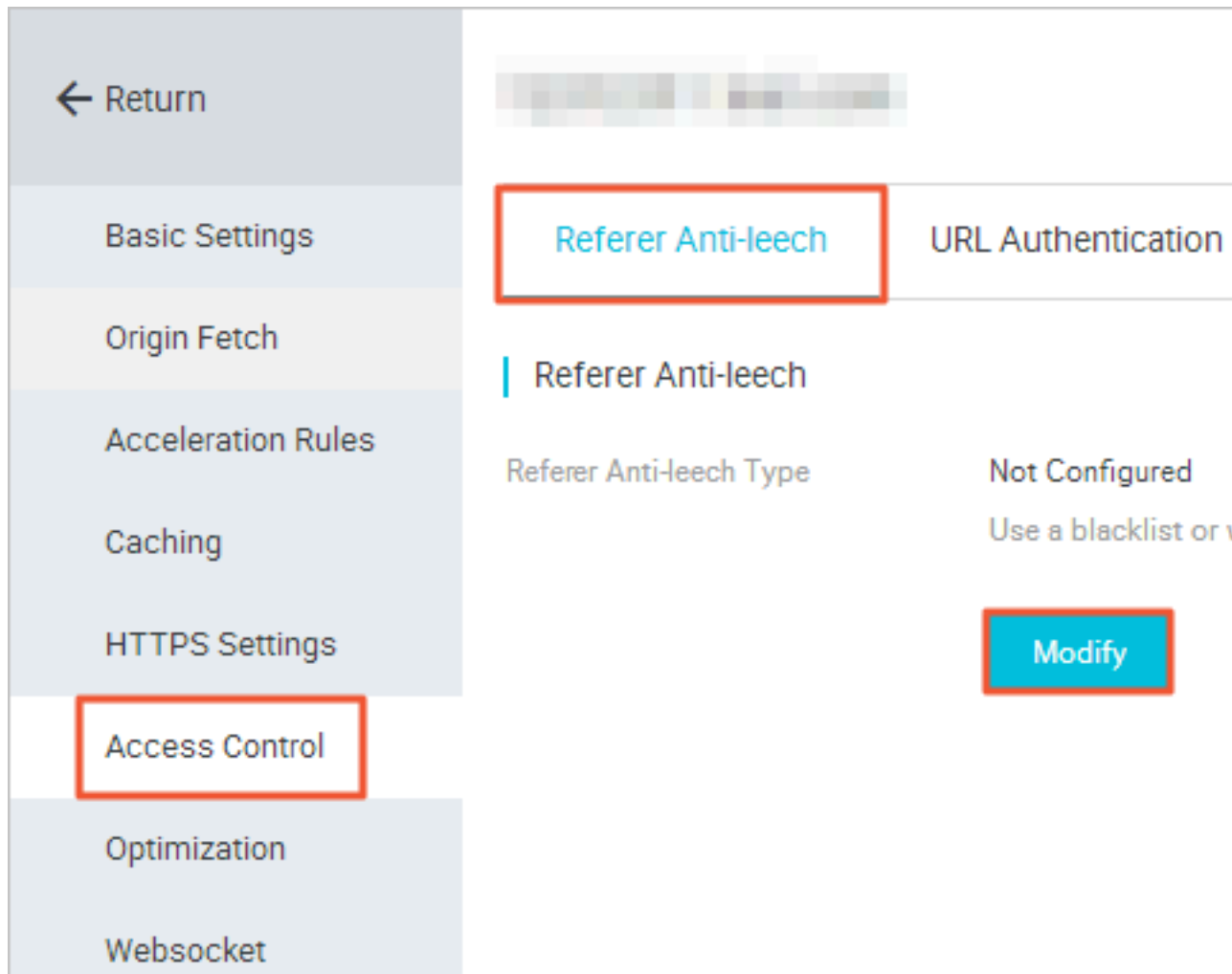
- anti-leech 機能は、デフォルトでは無効です。必要に応じて設定することができます。
- ブラックリストとホワイトリストは互いに排他的です。この機能を使用して一度に編集できるのは、ブラックリストのみ、あるいはホワイトリストのみです。
- 空のリファラーフィールドに、DCDN リソースにアクセスできるかどうかの設定ができます。これにより、ブラウザのアドレスバーからリソース URL に直接アクセスできます。
- 設定後、ワイルドカードドメインのサポートが自動的に追加されます。たとえば、「example.com」と入力すると、実際は「\*.example.com」という設定になり、example.com のすべてのサブドメインに適用されます。

#### 手順

1. ドメイン名ページで、ドメイン名を選択し、**[設定]** をクリックします。

2. [アクセス制御]>[リファラーAnti-leech]に移動し、[変更]をクリックしま

す。



3. ブラックリストまたはホワイトリストを設定します。

## 7.2 IP ブラックリストとホワイトリスト

### はじめに

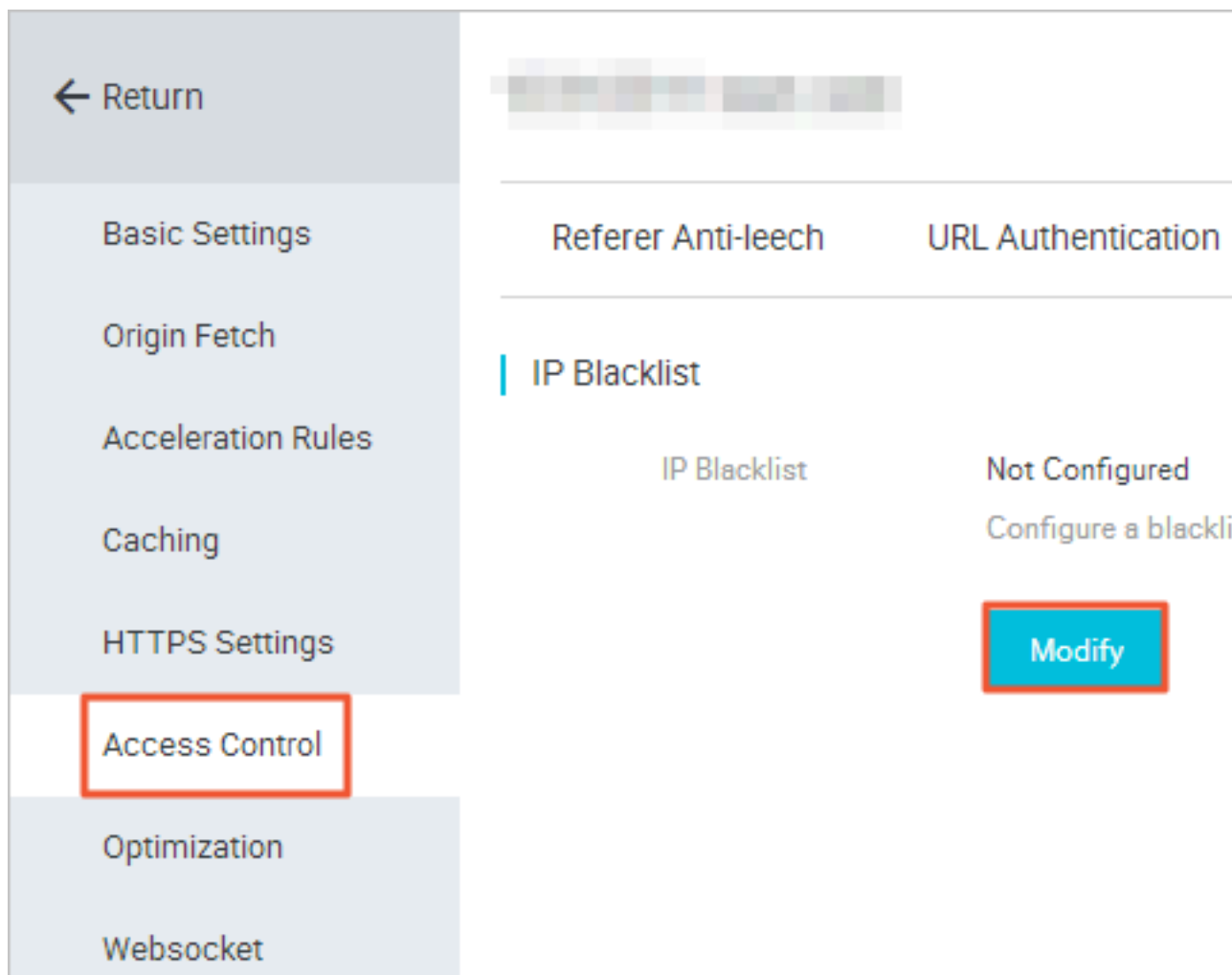
DCDN はブラックリストルールをサポートしています。ブラックリストに記載されている IP アドレスは、対応するドメインにアクセスできません。

- IP ブラックリストでは、IP アドレス範囲の登録をサポートしています。例：127.0.0.1/24。
- 127.0.0.1/24 の場合、24 はサブネットマスクの最初の 24 ビットが有効ビットとして使用され、 $32 - 24 = 8$  ビットがホスト番号を表すために使用されることを示します。このようにして、サブネットは  $2^8 - 2 = 254$  ホストに対応できます。127.0.0.1/24 は、127.0.0.1 から 127.0.0.255 の範囲の IP ネットワークセグメントを示します。

### 手順

1. ドメイン名 ページで、ドメイン名を選択し、[設定] をクリックします。

2. [アクセス制御] > [IPブラックリスト]に移動し、[変更]をクリックします。



3. IP ブラックリストを設定し、[OK]をクリックします。

## 8 パフォーマンスの最適化

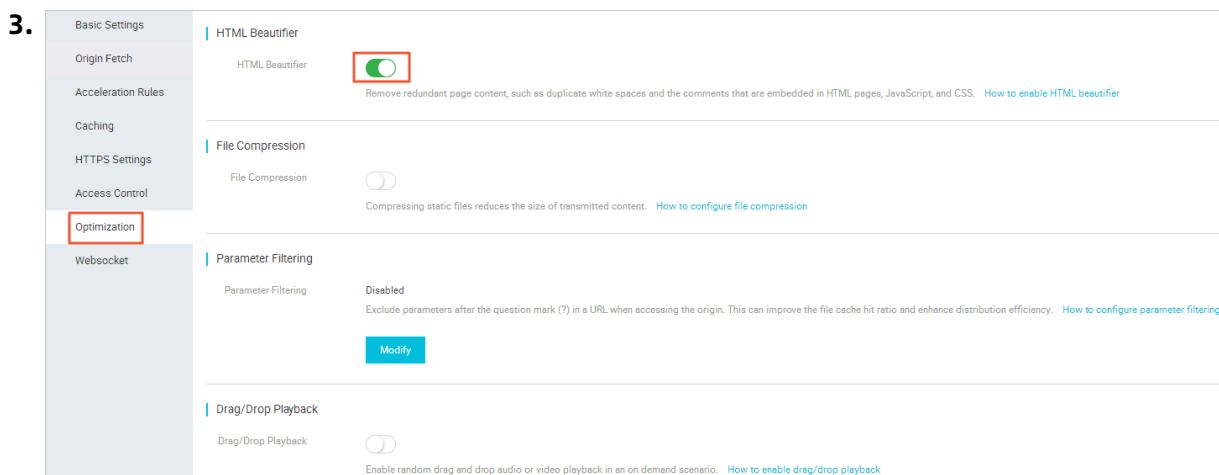
### 8.1 ページの最適化

#### はじめに

HTML Beautifier 機能では、Web ページ HTML 内のコメントや重複する空白を削除することができます。Web ページから冗長なコンテンツを削除してファイルサイズを縮小し、アクセラレーション配信の効率を向上させることができます。

#### 手順

1. ドメイン名ページでドメイン名を選択し、[設定] をクリックします。
2. [最適化] > [HTMLBeautifier] に移動し、HTML Beautifier を有効にします。



### 8.2 インテリジェント圧縮

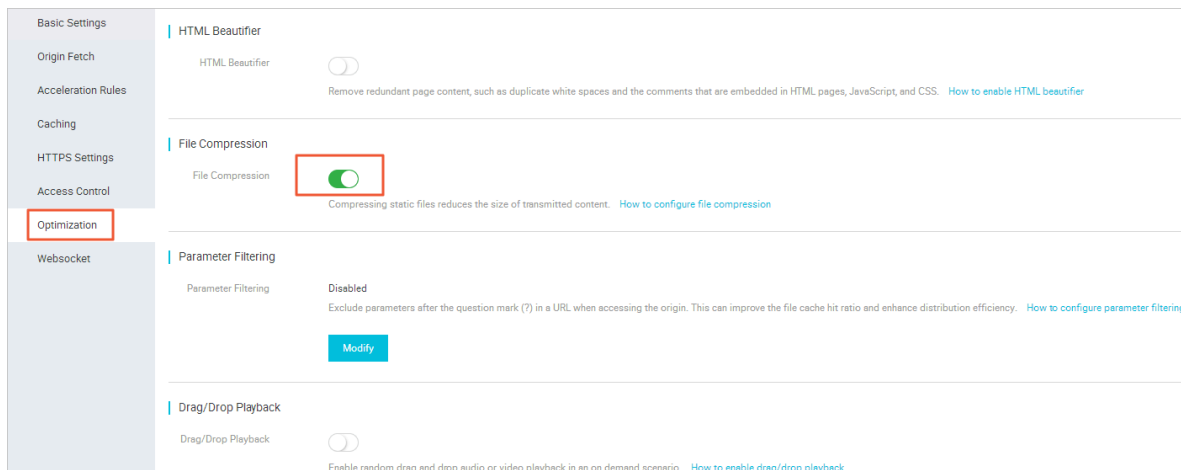
#### はじめに

- ファイル圧縮機能を使用すると、送信されるコンテンツのサイズを縮小するために、大部分の静的ファイルを圧縮してコンテンツ配信を高速化することができます。
- 現在サポートされている圧縮形式は次のとおりです: content-type :text/xml、text/plain、text/css、application/javascript、application/x-javascript、application/rss+xml、text/javascript、image/tiff、image/svg+xml、application/json。

#### 手順

1. [ドメイン名] ページでドメイン名を選択し、[設定] をクリックします。

2. [最適化] > [ファイル圧縮] に移動し、この機能を有効にします。



## 8.3 パラメーターのフィルタリング

### はじめに

疑問符 (?) とリクエストパラメーターが含まれる URL リクエストが CDN ノードに送信された場合、CDN ノードはこのリクエストをオリジンサイトに送信するかどうかを判断します。

- パラメーターのフィルタリングが有効になっている場合は、CDN ノードでリクエストを受信した後、パラメーターなしの URL は遮断され、オリジンサイトに対しリクエストされます。さらに、CDN ノードでコピーが1つだけ保持されます。
- パラメーターのフィルタリングが無効になっている場合は、異なったコピーが異なった URL の CDN ノードにキャッシュされます。

### 推奨事項

- HTTP リクエストは、一般的なパラメーターを含みます。パラメーターの内容の優先度が低く、パラメーターの概要ファイルを無視しても構わない場合は、パラメーターのフィルタリングを有効にすることを推奨します。これにより、ファイルキャッシュのヒット率と配信効率が向上します。
- 重要な情報 (ファイルのバージョン情報など) がパラメーターに含まれている場合は、予約済みパラメーターとして設定することを推奨します。複数の予約済みパラメーターがサポートされています。リクエストに予約済みパラメーターが含まれている場合、その予約済みパラメーターはオリジンサイトへのリクエストに含まれ、無視されません。

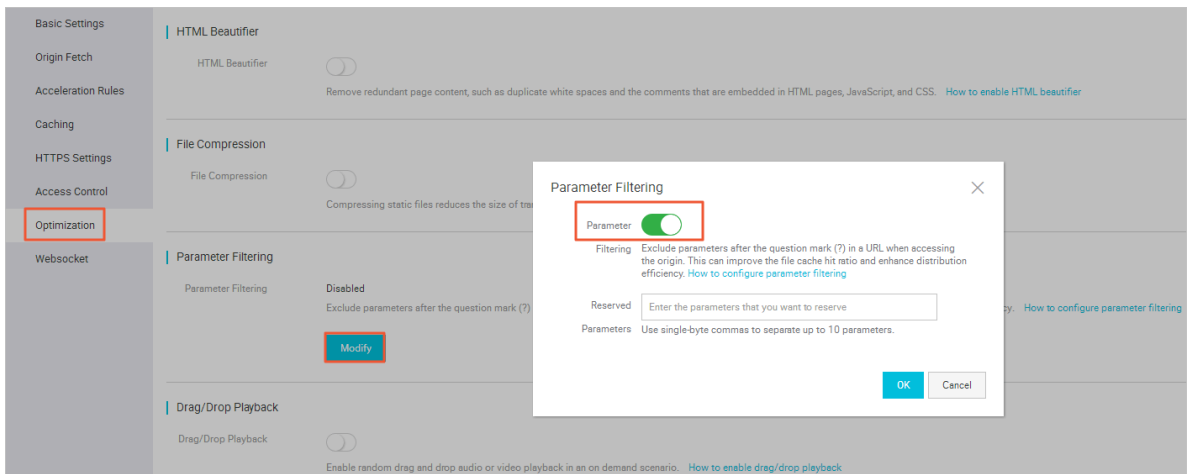
### 使用例

例: `http://www.abc.com/a.jpg?x=1`. CDN ノードに URL をリクエストします。

- パラメーターのフィルタリング機能を使用すると、CDN ノードはパラメーター `x=1` を無視し、リクエスト `http://www.abc.com/a.jpg` をオリジンサイトに送信します。
- オリジンサイトがリクエストに回答すると、その回答が CDN ノードに着信します。CDN ノードはコピーを保持し、`http://www.abc.com/a.jpg` のコンテンツに対する回答を端末へ返し続けます。同様のリクエスト `http://www.abc.com/a.jpg?parameters` はすべて、CDN コピーのコンテンツ `http://www.abc.com/a.jpg` に応答します。
- パラメーターのフィルタリング機能を無効にすると、各 URL は CDN ノード上に別のコピーをキャッシュします。たとえば、オリジンサイトから返される回答コンテンツは、`http://www.abc.com/a.jpg?x=1` と `http://www.abc.com/a.jpg?x=2` では異なります。

## 手順

1. [ドメイン名] ページでドメインを選択し、[設定] をクリックします。
2. [最適化] > [パラメーターのフィルタリング] に移動し、[変更] をクリックします。
3. [パラメーターのフィルタリング] スイッチをクリックします。



## 8.4 ドラッグアンドドロップ再生

### はじめに

ビデオオンデマンドのシナリオでは、再生の進行状況バーをドラッグすると、エンドユーザーは `http://www.aliyun.com/test.flv?start=10` のような URL リクエストをサーバーに送信します。(start=10 がキーフレームでない場合) サーバーは、10 秒目より前のキーフレームのデータをクライアントに返します。

エンドユーザーからこのようなリクエストを受信し、ドラッグアンドドロップ再生が有効になっている場合、CDN ノードは10 秒目より前のキーフレームのデータ (10 秒目がキーフレームでな

い場合) (FLV 形式)、または 10 秒目以降のデータをエンドユーザーに直接返すことができます。MP4 および FLV 形式のファイルがサポートされています。

ファイル形式	メタ情報	start パラメーター	例
MP4	オリジンサイトビデオのメタ情報は、ファイルヘッダーに含まれている必要があります。ファイルの末尾にメタ情報が含まれているビデオはサポートされていません。	start パラメーターは、時間を秒単位で指定します。小数は、ミリ秒を示します。たとえば、start=1.01 は開始時刻が 1.01 秒であることを示します。現在の start がキーフレームでない場合、DCDN は start パラメーターで指定された時刻より前のキーフレームを探します。	<td>`http: //domain/ video.mp4?start = 10 は、10 秒目からのビデオ再生をリクエストします。
FLV	オリジンサイトのビデオにメタ情報が含まれている必要があります。	start パラメーターでは、バイトを指定します。現在の start がキーフレームでない場合、DCDN は start パラメーターで指定されたフレームより前のキーフレームを自動的に探します。	http : // domain / video.flvstart=10 は、10 バイト目からビデオを再生するようにリクエストします。

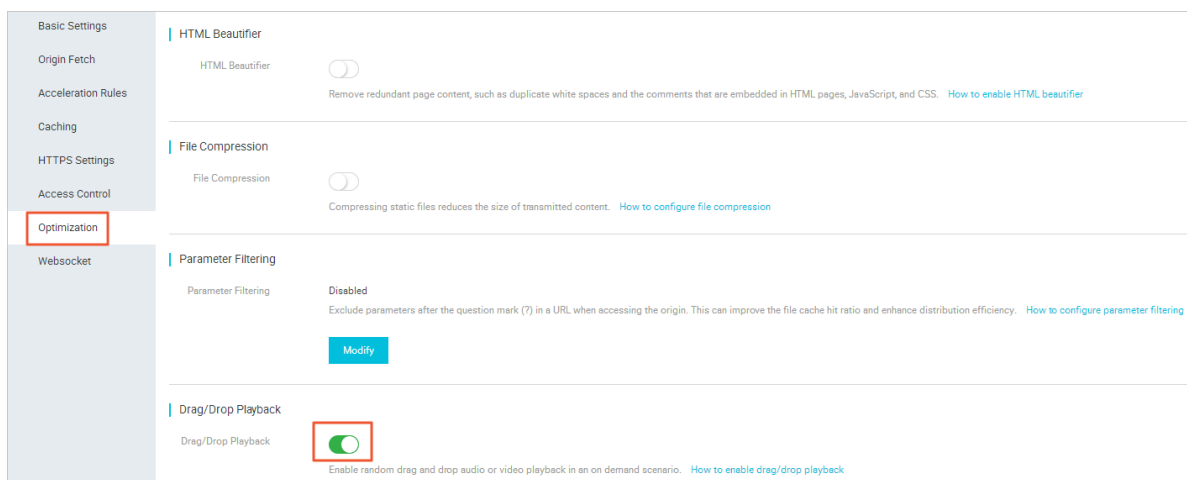
**注記**

- ドラッグアンドドロップ再生機能を使用するには、オリジンサイトで Range リクエストをサポートしている必要があります。オリジンサイトは、Range フィールドを含む HTTP リクエストヘッダーの適切な 206 Partial Content を返さなければなりません。
- MP4 および FLV 形式のファイルがサポートされています。
- 現在、flv 形式は、オーディオ aac およびビデオ avc のコーディング形式のみをサポートしています。ドラッグアンドドロップは、他のコーディング形式ではサポートされていません。

**手順**

1. [ドメイン名] ページでドメインを選択し、[設定] をクリックします。

2. [最適化] > [ドラッグアンドドロップ再生]に移動して、この機能を有効にします。





## 9 詳細設定

---